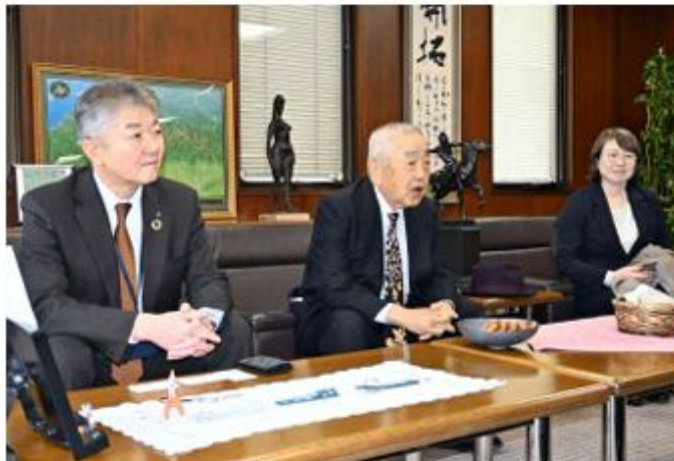


あいさつ

◆コアグループ（東京）の種村良平代表、帯広コア学園の千葉直樹理事長兼校長が来社

4日、帯広コア専門学校
の入学式（5日）に合わせて十勝毎日新聞社を訪れた。同校の藤田薫事務長
写真右Ⅱが同行した。

今年と同校が開校し40周年の節目。種村代表Ⅱ同中



央Ⅱは「初めて来た時は十

勝平野の広さに驚いた。ここに学校をつくって大丈夫かと思ったが、40年間で2100人以上の資格を持つ人が卒業したのはすごい成果。地域の発展により影響を与えていると思う」と述べた。

千葉理事長Ⅱ同左Ⅱは同校と日本語学校が連携協定を結ぶことを報告。「外国人材が地域で活躍できる社会を目指す」と話した。

目標に向け
「常に挑戦」

帯広コア

○：帯広コア専門学校
(千葉直樹校長)は5日、
帯広市民文化ホールで行っ
た。

今年度は情報システム科
16人、医療ビジネス科9人、
介護福祉科11人、歯科衛生
士科19人の計55人が入学。
千葉校長は「社会は常に変
化している。変化に対応し、
新しい時代を切り開く力を
身に付けてほしい。本校で
専門性を磨き、社会で活躍
できる人材へ成長されるこ
とを期待している」と述べ
た。

在校生代表の渡辺史弥さ
ん(情報ビジネス科2年)
が「この学校で素晴らしい
経験を積み重ね、成長して
いくことを心から願ってい
る」と歓迎の言葉を述べた。

新入生を代表し、歯科衛
生士科1年の遠藤誌乃さん
(18)が「これからそれぞ
れの夢、目標に向かって日
々努力を重ねていく。充実

した時間を過
ごすために、
他の学科の皆
さん、先輩、
先生方と交流
を深め、常に
挑戦を重ね、
勉学に励んで
いく」と決意
を語った。

(中島佑斗)



新入生代表として決意を
述べる遠藤さん(帯広コ
ア専門学校)

交流や研究 教育の質向上へ 帯広コア学園、岩谷学園と協定

帯広コア専門学校を運営する帯広コア学園（千葉直樹理事長）は11日、学校法人岩谷学園（横浜市、岩谷



協定書を手にする（左から）千葉理事長と折笠理事

大介理事長」と包括連携協定を締結した。それぞれの資源を活用し合い、教育の質向上を目指す。

横浜市内を主に専門学校などの事業を手掛ける岩谷学園は、根室管内中標津町でも日本語学校とIT専門学校を運営する。同じ道東に拠点があり、地方の人口減少や人手不足など直面する課題が共通していることや、いずれも外国人学生が多く在籍し、特に介護とITの分野で協力できるなどとして連携に至った。

協定に基づき、教育プログラムの協力や共同開発、学生交流、共同研究などを行う。介護分野の人材不足への対応策として、岩谷学園の留学生のコア専門学校入学なども構想する。

同日、帯広市内のホテル日航ノースランドで協定締結式が行われ、千葉理事長と岩谷学園の折笠初雄理事長が協定書に調印した。折笠理事長は「お互いの学生にとって大きな刺激になる」と語り、千葉理事長は「地域の未来を描く中で、地域のハブ的な役割を持つ教育機関としてわれわれの価値を提供してきた」と述べた。（北村里沙）

歯科衛生士の現場学ぶ

つがやす医院 帯広コア新入生が見学

帯広市内のつがやす歯科 帯広コア専門学校の歯科衛生士科の新生を対象とし



歯科技工士から歯科技工物の説明を受ける学生

た初めての見学会が開かれた。学生は熱心にメモを取って、職業観を深めていた。将来像を描き学ぶ意欲を高めてもらおうと同校が打ち進め、今回初めて実施した。1年生19人が訪問し、手術室や技工室などを回り、仕事内容やキャリアパス、訪問歯科診療について説明を受けた。

質疑応答では同医院の職員が「1年生は基礎の学びが多いけれど、患者に説明する時に役立つのでしっかり取り組んでほしい。学生生活は今だけなので、楽しむことも忘れずに」などと助言した。

1年生の石原芽依さん(18)は乳歯が抜けず毎回歯科を訪れていた際に、歯科衛生士の姿を目にして憧れ、目指すようになった。インプラントや矯正などさまざまな活躍の場がある院

内を回り、「いろいろな分野の職員がおり、さまざまな器具があつて驚いた。患者に信頼され、頼りにされる歯科衛生士を目指したい」と気持ちを新たにしていた。

(高井翔太)

道東三地区研修 6年ぶり十勝で

老人福祉施設協

【幕別】十勝老人福祉施設協議会（成田啓介会長）

は17日、幕別町百年記念ホールで今年度第1回総会を開き、6年ぶりに十勝で道東三地区老協研修会を開くことを報告した。外国人材とICT(情報通信技術)に関する調査結果の説明もあった。

37人の各施設長が出席。成田会長は「少子高齢化と人口減少で引き続き人材不足の状況改善は厳しいが、会員の皆さまと情報交換しながら取り組んでいく」と



調査結果を報告する十勝校長

あいさつ。議案で、同研修会を9月22日に帯広市内のホテル日航ノースランド帯広で開き、記念講演には淑徳大学の結城康博教授を招くことを承認した。

同協議会所属の各施設を対象とした外国人材とICTの調査では、外国籍労働者については回答のあった43施設中20施設が受け入れていた。言語によるコミュニケーションや生活支援の負担などの課題が挙げられたが、7割以上の施設が今後の採用に前向きな回答をした。

調査した帯広コア専門学校の千葉直樹校長は「社会的な変化の中でどう対応するか一緒に考えていきたい」と呼び掛け、人材不足への対応や、業務の効率化とケアの質の向上に向けた学び合いのコミュニティー「とかち介護Lab(仮称)」の立ち上げを提起した。

(高井翔太)

実り、走る喜び。ポスターに

11月2日に帯広市内で開催される「フードバレーと
かちマフソン大会」(実行
委主催)のポスターが完成
した。毎年、帯広コア専門
学校の学生が考えたアイデ
アを基に制作されており、
今年は、十勝らしい「実り」
と「走る喜び」を感じさせ
る一枚となっている。
ポスターデザインは、情
報デザイン学科2年の渡辺
史弥さん(20)が担当した。

フードバレーマラソン 渡辺さん(20)デザイン



ポスターを手にする渡辺さん

ランナーを中央に描き、コ
ミ合わせて、約20種類計した
レースにはプロッコリーや
ニスジン、トウモロコシな
ど十勝産の野菜を配置。自
身も昨年ハーフに参加し、
「コスプレして走る人が印
象に残っていたので、今回
のデザインにも取り入れ
た。野菜がドーンと並んで、
インパクトのある仕上がり
になったと笑顔を見せた。
キャッチコピー「実りを考
案したのは同学科2年の佐
々木朋輝さん(19)。「語感
を大切にしながら、自分で
考えた言葉に生成AIを組
み合わせて、約20種類計した
とし、「帯広のフードバレー
という雰囲気とも合ってい
る」と話す。
ポスターは9月判で約80
0枚用意し、市内の体育施設
や公共施設、道内の市町村役
場などで掲示されている。
大会のエントリー期間は、
ランナーが9月7日まで、ポ
ランテアが同8日まで。ふ
るさと納税を利用した「応援
ランナー枠」は9月21日まで
受け付けている。
詳細は公式ホーム
ページQRコー
ドから。(児玉未知佳)

帯広コア協賛会 会長に出村氏

総会で選任



帯広コア専門学校協賛会の総会が、帯広市内の北海道ホテルで開かれ、前任の野村文吾会長の辞任に伴い、新たに出村行敏氏（大昭電気工業会長）が写真に選任された。任期は来年の定期総会まで。また、40周年事業記念式典を11月22日に開くことを決めた。

協賛会は十勝管内の企業

や団体など135社で組織する。総会は7月28日に開かれ、オンラインも合わせて26人が出席。新会長の出村会長が「技術を身に付けられる専門学校としていい学校にしていかなければ」とあいさつし、支援を呼び掛けた。

今年度は、学校祭の9月6日に新たに防災食の試食会を開くことを決めた。昨年度から始めた郷土産を育む公開授業「十勝学」は今年度も継続することを確認。昨年度卒業生の国家資格取得状況では、歯科衛生士と介護福祉士の試験で合格率100%を達成したことが報告された。

総会後は同校の千葉直樹理事長が講演。「持続可能

な地域社会の確立を目指し、何ができるのか今まで以上に考えていかなければいけない」と述べた。

（菊地吉雄）



◆コアグループのコア未来ソリューションカンパニ

あいさつ

の警山博史社長とコア学園グループクリエイティブ・トゥエンティワンの神山恵美子社長らが来社し、表敬訪問で十勝毎日新聞社を訪れた。

▲神山氏「写真左」は、ICTサービスの同社が9月以降、ケーブルテレビのシェアコム（東京）などとの間で気象や危機情報、SNS関連情報の配信実証を都内一部で開始することを説明。「高齢者、聴覚が不自由な方の情報源として活用していきたい」と話した。

▲神山氏「同右」は、関連会社の事業的意義を強調した上で、「自治体とも一緒にこうした事業に取り組みれば」と述べた。

▲帯広コア専門学校の千葉直樹理事・校長と藤田兼事務長が同席し、千葉理事長は同校の40周年事業として、11月22日にホテル日航ノースランド帯広で記念式典と祝賀会を開催することを報告した。

2025年8月13日

十勝毎日新聞社

【2面】

実りある臨床実習を

コア専門学校
歯科衛生士科 11人、登院式で抱負

帯広コア専門学校（千葉直樹校長・理事長）の歯科衛生士科の登院式が3日、同校で行われた。8期生の2年生は12月までの4カ月



代表して決意を述べる倉崎さん

月間、十勝管内の歯科医院などを1人3施設回って実習を行う。

冒頭、千葉校長が「元気に学ぶ気持ち満載で臨んでほしい」とあいさつ。北海道歯科衛生士会の小林綾子十勝支部副会長が「実習が実のあるものになることを願う」、十勝歯科医師会の大滝達哉会長が「明るく元気にあいさつができる臨床実習を過ごしてほしい」と激励。帯広市市民福祉部の石田智之ことも健康担当参事が祝辞を述べた。

同科の1・3年生や保護者ら約30人が見守る中、学生たちが一人ずつ目標を述べ、実習で使用するネームプレートを受け取った。

学生を代表し、倉崎佑菜さん（21）が「学校で学んだ知識を臨床の場に生かし、歯科衛生士としての役割だけでなく、患者さんとの関わり方を深く学ぶこと

を目標に精いっぱい取り組む」と決意を語った。

（菊地青葉）

成果発表や模擬店
地域に活動を紹介

帯広コア学校祭

帯広コア専門学校（千葉直樹校長）の第28回学校祭が6日、同校で開かれた。学習の成果発表や模擬店の出店が行われ、地域住民ら多くの人でにぎわった。今年からは初めて同校で備蓄する防災食の試食コーナーが設けられた。

介護福祉科では福祉用具体験のほか、アロマオイルを塗布しながらハンドケア



来訪者にタッチケアを
行う学生ら

をするアロマタッチケア体験を実施。照明を落とした落ち着いた空間を演出し、授業でタッチケアを学んだ学生が一人一人に優しくケアを施していた。

アロマタッチケアを体験した市内の出貝諒河さん（27）は「香りがよくリラックスできた。優しい雰囲気づくりもしてくれて受けてよかった」と笑顔。同科2年の三好依桜奈さん（19）は「お客さんの状態に合わせて会話しながらケアすることで、相手も自分もリラックスしながらできた。気持ちよかったという声も聞けてうれしい」と語った。

2階の教室では、防災意識の向上を目的に同校で備蓄する防災食の一部を初めて提供。訪れた学生や家族連れらが缶入りソフトパンやハンバーグなどを味わっていた。

ハンドメイド作品の販売やビンゴ抽選、有志の発表も行われた。（菊地青葉）

外国人介護士の思い共有

帯広で道内支部が研修

北海道介護福祉会の4支部合同研修会が4日、帯広市内の帯広コア専門学校で開かれた。会場は約20人が参加し、福祉施設の課題や改善点を話し合った。

同会十勝支部が主催。根と網走、胆振を合わせた4支部が持ち回りで開いており、帯広では4年ぶりの開催。シンポジウム「外国人スタッフから見た日本の介護」と題して、講師「福祉施設に求められること」の2部制で行った。

1部では4人が登壇。やりがいや苦労を語った。ミヤンマー出身で同校卒業生のケックザイさん(30)は治安の良さを一番の理由に挙げて、「日本語をもっとうまくなりたい。将来はミヤンマーで介護施設を造りたい」と思いを口にした。



「自転車とバスを使っているが、バスが1時間に1本しかなく冬が不安」といった通勤面や、遠回しに指す日本人職員の話し方などの悩みも共有。他の外国人スタッフからは「利用者からの感謝の言葉がうれしい」などのやりがいや、「日本語を勉強する時間がほしい」といった意見もあった。

後半は、とまた内科消化器クリニック(帯広市)で事務局長相談室長を務める山本進氏(67)が、特別養護老人ホームの生活指導員と施設長の経験を踏まえて

「福祉施設にみとりの役割が増すものの、蘇生措置や救急業務の判断基準となる本人や家族の意向の確認といった体制の不備を指摘。加齢により身体機能が低下する「フレイル」の評価を入所時にいい、措置の判断基準を策定することの必要性を解説した。

韓国を母界的に高齢化率が上昇していることから、「日本の高品質な介護は需要が生まれ、海外に展開できる」と展望を語った。

(高井翔太)



走者やスタッフで
マラソン盛り上げ

コア専門学校

帯広コア専門学校（千葉直樹校長）は29日、「2025フードパレードかちマラソン」（実行委員会主催、11月2日開催）に向け、壮行会を開いた。同校からは、教職員も含め前日と当日のボランティア36人、ランナー18人が参加する。地元のマラソンイベントを盛り上げるため、201

ボランティアやランナーとして参加する帯広コア専門学校（コア）の学生ら

2年の第1回大会から学校を挙げて参加している。

壮行会には、学生や教職員ら約30人が参加。畠山晴美副校長が千葉校長の壮行文「爽やかな笑顔で元気な帯コア生らしさを出して頑張つて。寒いので安全に気を付けて」を代読し、学生が士気を高めた。

前日はボランティア、当日はランナーとして参加する赤間勇星さん（24）＝情報ビジネス科2年＝は「長距離は初めてなので、体調に気を付けて走りきりたい」と力を込めた。ボランティアとして運営を担う金須優依さん（18）＝歯科衛生士科1年＝は「陸上をや

つていて、高校の時に出たことがある。今度はサポートする側でやってみたい」、丸一綾華さん（18）＝同＝は「ランナーの頑張っている姿を見ながらサポートできよう努めたい」と意気込んでいた。（菊地言葉）

ニーズに応え学科編成



専攻科十勝大学の専攻科十勝の専攻科
専攻科十勝 (専攻科) 専攻科十勝の
専攻科十勝 (専攻科)

人材育て 40年

専攻科十勝専攻科

社会の進化に対応した専攻科
専攻科十勝は、延べ2143
人の卒業生を送り出し、専攻科
専攻科十勝、専攻科十勝は19
80年代前半、専攻科十勝の「テ
レトピア専攻科」専攻科十勝は
たしなごたつた。以来、情報
化と医療福祉の人材育成に重要
な役割を果たしてきた。千歳市
専攻科十勝は「地域が必要とする人
材の育成に向け、専攻科十勝の
在り方」を振り返る。

情報化の促進で地域社会の活
性化を図る専攻科十勝に向け、市は
専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝
専攻科十勝、その一環を担う人材を育
成する専攻科十勝専攻科十勝専攻科
専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝
専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝

専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝
専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝
専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝
専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝

医療・福祉系が情報系の倍超に

専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝
専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝
専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝
専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝

専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝
専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝
専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝
専攻科十勝専攻科十勝専攻科十勝

創立40年「地域と一層連携」

コア専門学校 記念式典160人祝う

帯広コア学園(千葉直樹理事長)が運営する帯広コア専門学校(帯広市西11南41)の創立40周年記念式典が22日、市内のホテル日航



あいさつする千葉理事長

ノースランド帯広で開かれた。歴代の卒業生ら約160人が節目を祝った。

同校は1986年に帯広コンピュータ専門学校とし

て開校。99年に帯広コンピュータ・福祉専門学校、2007年に現校名の帯広コア専門学校となった。現在は歯科衛生士科、介護福祉科、医療ビジネス科、情報ビジネス科、高度情報システム科の5学科がある。これまで2148人の卒業生を送り出し、このうち約9割が十勝で新たな一歩を踏み出した。

皆さんは本校の歴史そのものであり、私たちの誇り。地域との連携を一層深め、より実践的な教育プログラムを展開に努めていく」とあいさつ。続いて米沢則寿市長が祝辞を述べた。

コア(東京)の種村良平代表取締役会長に創設者顕彰と花束が、コアと帯広電子、真宗協会、刀圭会の4団体に感謝状が贈られた。

同校協賛会の出村行敬会長の発声で乾杯。十勝を拠点に活動する歌手の大場悠平さんも来場し、歌声を披露して節目を祝福した。

(高井翔太)



経理の知識を地元十勝で生かし、 地域貢献できる社会人を目指します

経 理の道に進もうと考えたのは「生まれ育った十勝で働きたい」という気持ちが出発点でした。

地元に残るため、どの企業でも求められるやすいスキルを習得する必要があります。そう思ったときに、真つ先に浮かんだのが経理として働く自分の姿でした。「簿記や会計の知識があれば、就職の際に強みとして生かせるのでは」と考え、帯広コア専門学校の情報ビジネス科へ進んだ経緯があります。

入学後は簿記の学習に力を入れ、1年生のときに3級の資格を取得。現在は2級の取得を目指しています。簿記を学ぶにつれ、会社のお金の流れが徐々に見えてくる感覚が面白く、経理の仕事への興味はさらに深まりました。

また学業と並行して学生会のリーダーを任せ、学校祭や新入生歓迎会などイベント運営にも携わりました。高校時代もまとめ役を任されることが多かったのですが、専門学校では学生に裁量が委ねられる範囲が広く、責任の重さを感じたのを覚えています。企画や予算書づくり、当日の運営まですべてチームで協力して取り組む難しさと楽しさの両方を学びました。予算書づくりでは、学んできた簿記の知識が生かされ、成長を実感するとともに、大きな自信につながりました。

卒業後は地元の農協で働くことが決まっていますが、配属部署はまだ未定です。なるべく経理の仕事ができたらと思っています。ただ農協は地域の暮らしを支える場であり、どの部署でもやりがいを感じられるはずです。「両親からも「学んできたことは必ずどこかで役立つよ」と応援してもらっており、春からの生活に向けて、期待がふくらんでいます。

20歳という節目を迎える今、「自立」の言葉が胸に浮かぶようになりました。これまでは実家での生活に甘えてきましたが、社会に出るこれからは、生活も仕事も自分の力で築いていける大人になりたいと思っています。



帯広コア専門学校
わたなべ ふみや
渡辺 史弥さん



[プロフィール]2005年7月生まれ、芽室町出身。芽室高校卒業後、経理を学ぶため帯広コア専門学校情報ビジネス科へ進学。学生会長として行事運営に取り組む。簿記2級取得を目指して勉強中。4月よりJAめむろに就職予定。

6科の46人 社会へ一歩

帯広コア専門学校

帯広コア専門学校（千葉直樹校長）の卒業証書授与式が7日、帯広市民文化ホールで開かれ、卒業生46人が決意を胸に社会への一歩を踏み出した。

卒業生の内訳は、高度情報システム科2人、情報ビジネス科13人、医療ビジネス科9人、介護福祉科8人、歯科衛生士科13人、専攻科1人。それぞれスーツやかまに身を包み、式に臨んだ。

卒業証書授与、優秀学生の表彰、記念品贈呈後、式辞で千葉校長が「今、社会

は歴史的転換期にある。しかし、皆さんが本校で磨き上げた『専門性』への情熱と現場で人を支え、社会に貢献しようとする『志』は変わらない。未来が希望と

喜びに満ちあふれたものであることを心より願っています」と激励した。在校生からの送辞後、卒業生を代表して湯浅つばみさん（医療ビジネス科2年）

が答辞。学校生活で支えてくれた教員や、実習を受け入れた地域の医療機関などに感謝の言葉を述べ、「私たちが信じて最後まで寄り添い、導いてくださった方々に心から感謝しています。在校生の皆さんへ、学び続けること、成長することを忘れ

ず、自分の可能性を信じてください」と言葉を贈った。（北崎諒子）



晴れ着姿で卒業証書を受け取る卒業生

が答辞。学校生活で支えてくれた教員や、実習を受け入れた地域の医療機関などに感謝の言葉を述べ、「私たちが信じて最後まで寄り添い、導いてくださった方々に心から感謝しています。在校生の皆さんへ、学び続けること、成長することを忘れ

市長選 学生制作ポスターで啓発

帯広コア専門学校3人のデザイン



ポスターをPRする関係者。右から川上会長、朝倉さん、太田さん、山口さん

色使いで投票意欲を高めた
い」、山口さんは「見やす
さを意識した」と話す。
4日に同校で引き渡し式
を行った。各選挙で欠かさ
ず投票しているという3人
は「今回の取り組みを通じ、
さらに（投票への）意欲が
高まった」と強調。川上会
長は「ポスターを通して
広く投票を意欲してもらえ
たら」と期待している。
(佐藤いづみ)

帯広市長選（4月5日告
示、同12日投票）に向け、
帯広コア専門学校の学生が
投票を呼び掛ける啓発ポス
ターを制作した。市長選で
の取り組みは初めてで3種
類を用意した。採用された
3人は「投票率が低いとさ
れる若い人にも関心を持つ
てもらいたい」と話す。今
月末に市内の公共施設、ス

ーパーや金融機関など約1
40カ所に掲示する。

市明るい選挙推進協議会
(明推協、川上副会長)が
「若年層に選挙に関心を持
ってもらおう」と、201
9年と23年の統一地方選
(市議選)に次いでポスタ
ーのデザインを依頼した。

採用されたのはいずれも
情報システム課1年の朝倉
颯太さん、太田徳音(しい
ど)さん、山口彩織さん。
同校では授業の一環で同科
と医療ビジネス科1年の全
員がデザインを考え、校内
投票で3点を決定した。

太田さんはAI(人工知
能)が作成した人物を前面
に「帯広の未来を決めるの
は君だ」のキャッチフレー
ズを表記。「インパクトを
重視した」と語る。

朝倉さんと山口さんは明
推協のキャラクター「めい
すいくん」を配置したデザ
イン。朝倉さんは「優しい

投票啓発 専門学生がポスター 市選管など依頼 3作品 140カ所に掲示

帯広コア専門学校の学生が、帯広市長選と市議補選の啓発ポスターを制作し、4日、市選挙管理

委員会などに完成品を同校で引き渡した。3月下旬から、市内の公共施設など約140カ所に掲示



帯広市長選と市議補選のポスターを制作した帯広コア専門学校の3人

される。

ポスター制作は、市選管と市明るい選挙推進協議会（川上劭会長）が同校に依頼。25作品の中から、校内選考で3作品が採用された。

同校1年の太田偲音さん(19)は、人工知能(AI)で男性が正面を指さす姿を生成し、「帯広の未来を決めるのは、君だ！」という文言を添えた。「インパクトのある見た目にした。若者が選挙に関心を持つきっかけになれば」と話す。

このほか、選挙のPRキャラクター「めいすいくん」を取り入れた作品が選ばれた。

（関山大樹）

2人に「夢を生きる」賞

S1帯広
みどり



受賞した遠藤さん（右）と浅野さん（左）。中央は上野会長

浅野さん（帯広コア） 遠藤さん（帯高看）

家族養い学ぶ 女性に支援金

国際ソロプチミスト帯広みどり（上野裕子会長）は23日、帯広市内の北海道ホテルで「夢を生きる」女性のための教育・訓練賞「クラブ賞」の贈呈式を行った。帯広高等看護学院1年の遠藤由帆さん（31）と帯広コア専門学校介護福祉科1年の浅野瞳さん（33）が表彰された。浅野さんは国際ソロプチミスト旭川のクラブ賞も受賞した。

同賞は、家族を養いながら大学や短大、専門学校で

学ぶ女性を応援することが目的。クラブが毎年、推薦応募の中から1人を選出し、支援金を贈る。今回受賞した2人は、子育てと資格取得のための学習を両立しながら励んでいることが評価された。遠藤さんは、北海道・東北のクラブをまとめる国際ソロプチミストアメリカ日本北リジョンの同賞にも選ばれた。

上野会長が賞状と賞金を贈呈。遠藤さんは「受賞を励みに、これからも挑戦し努力していく」と述べ、浅野さんは「今後も勉学に励み、すばらしい介護福祉士を目指したい」と話した。（長尾悦郎通信員）